

鷹取山自然観察会会報

2016. 6.12 No.12

鷹取山の植物相調査結果 - 2015.12月まで

鷹取山は三浦半島北部に位置しており、神武寺から繋がる自然豊かな場所として、神奈川県生物多様性ホットスポットに選定された場所である。鷹取山自然観察会では2013年11月から会員有志で植物相調査を開始した。調査結果については2014年10月までの結果について会報6号で報告した。今回は、前回の結果を含めて2015年12月までの調査について報告する。

1. 調査方法

環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査（モニ1000里地調査）マニュアル」に準じて行った。

植物相の調査にはさまざまな方法があるが、モニ1000里地調査では自然観察会のように定められたルートを定期的に歩いて植物の

種名を記録する「トランセクト法」で行っている。この方法は、「高い精度で調査を行うことよりも、同じ精度で継続的に植物相を記録すること」を第一に優先している。モニ1000調査マニュアルでは、木本及びシダ類、イネ科、カヤツリグサ科は除いてもよいとなっているが、ここでは維管束植物のすべてについて調査することとした。調査は調査ルート3.5kmを植生の違う6区間に分け調査した。各区間の植生の特徴は表1に記載しておりである。種名は木本類、草本類に分け全員で確認の上記載することとした。記載の方法は、原則として蕾、花、実の状態を記載した。種が不明なものについては標本を採取し後日博物館で同定・確認した。

2. 調査結果

(1). 区間別の特徴

前回の結果では維管束植物512種が確認され、木本54科152種、草本52科322種、シダ植物38種であった。

今回は前回の種も含めて610種が確認され、木本56科183種、草本57科379種、シダ植物16科48種であった。前回より種数が多いのは調査を重ねることにより見逃しが少なくなり追加された種数が増えたためである。



表1 調査区間の植生などの特徴

区間	植生など特徴	距離
A	鷹取山公園落葉広葉樹林、一部草地も含む	540m
B	市街地の舗装道路及び公園	600m
C	シイ、カシ等常緑広葉樹林、一部桜並木含む	1300m
D	コナラ、オオシマザクラ等落葉樹林	270m
E	スギ林縁部（逗子沼間自然環境保全地域境界）	540m
F	畑地及び林縁	230m

表2 区間ごとに観察した種の数

区分	A区間	B区間	C区間	D区間	E区間	F区間	合計
草本類	238	148	166	108	108	119	379
木本類	113	46	91	76	68	59	183
シダ類	27	14	23	25	8	16	48
合計	378	208	280	209	184	194	610

注) 合計は、全区間の種の合計です。

区間別の調査結果は表2のとおりである。区間別にその特徴をみると、A区間は鷹取山公園を中心として場所であり、カラスザンショウ、アカメガシワ、コナラ、クヌギ、オオシマザクラ、ミズキ、イヌシデ、ケヤキ、ムクノキなどの落葉広葉樹とスダジイ、タブノキ、アカガシ、ウラジロガシ、シロダモ、ヤブニッケイ等の常緑広葉樹もまばらにみられた。また、タマアジサイ、シバヤナギ、キハギ、ヤマツツジ、ハコネウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギ、コゴメウツギなどの中低木も多くみられた。草本類では展望台付近にセンボンヤリの群落、岩場にはケイワタバコの群落が見られた。ケイワタバコは横須賀市内では貴重な種でもあるが、しばしば盗掘にたい保全策が必要と考えられる。

B区間は市街地と子供のための公園がある場所である。住宅地内は人工的な環境であり路傍雑草などを中心としてアブラナ科、アカバナ科、キク科、イネ科などの外来種が多く確認された。区間内には鷹取小学校の石垣にトラノオシダ、イワカタヒバなどのシダ類、コ

モチマンネングサなどのベンケイソウ科、コバノタツナミソウ、シンテッポウユリなどが年間を通じて見られた。

C区間はアカガシ、スダジイ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が中心であるため、他の区間と植生の違いがみられた。このため冬でも暗い森であり、林内は下草が少ない場所でもある。この地域では蔓性のクマヤナギ、クロモジ、ヤマコウバシ、ハナイカダ、ツルシキミなどの中低木もみられた。草本類ではキッコウハグマ、ツルカノコソウ、ヤマネコノメソウなど、この区間でしか見られないものも数多くあった。

D区間ではクヌギ、コナラ、オオシマザクラ、ニガキなどの落葉広葉樹が多く、下草としての草本類は豊かであった。この区間は、在来種の比率が一番高い区間であり、ツクバトリカブト、ホタルカズラ、ヤマハッカ、タムラソウなど昔からの植物相が残っている地域でもあった。

E区間は逗子沼間の保安林及び自然環境保全地域に指定された林縁である。林内には、

スギ、ヒノキ、シロダモ、アオキ、ヤツデ等の常緑樹や、低木としてムラサキシキブ、カマツカ、ガマズミ、ツクバネウツギなどの落葉樹も普通に見られた。

F区間は畑地がある場所でもあり、畑地沿いには、ニラ、ノビル、ヒメウス、ヒガンバナ、オオジシバリなど草地や土手などに生える草本類が見られた。

(2).帰化植物

調査区間の自然度を見るため草本類について帰化植物と在来種の分布割合を調べた。帰化植物とは、外国原産の植物で、牧草用や鑑賞用として輸入されたものが野生化して各地に広まっていった植物である。一方、日本に古来から生育している種は在来種といわれている。

また、逸出種という栽培種が野生に入り込むものがあり、逸出種も帰化植物に入れた。逸出種にはオシロイバナ、ヒルザキツキミソウ、ムラサキカタバミなど園芸種などから野生化したものが多い。帰化植物・逸出種の区分は横須賀市自然・人文博物館編「三浦半島の野生植物」によった。

帰化率(%) = (帰化植物の種数 / 出現した全植物の種数) × 100とする。

一般的に都市化されてくると帰化植物が入り込み在来種の生息域を狭めてくることが知られている。今回、区間ごとの帰化率は図のとおりであり区間ごとの特徴を見ることができた。B区間は住宅地の道沿いと広場などであり、帰化率が高くなっていた。一方、DE区間は在来種の割合が高く、帰化植物が少なくなっていた。A区間は鷹取山公園内であり、人の出入りも多く、開けた草地があるためイネ科、キク科等の帰化植物が多かった。また、人により持ち込まれた園芸種が年々増加傾向にあるため、ルールが必要と思う。

(3).貴重種

今回の調査では600種を越える種が確認さ

れたが、多くの種が株数も少なく絶滅に近い状態にある。以前はエビネ、キンラン、ギンランなどラン科植物はこの地域では普通に見られたと聞いているが、現在では人の目につくところでは生えていない。

特に数が少ない種を挙げると次のとおりである。草本類ではヨツバムグラ、イチヤクソウ、オオカモメヅル、カガイモ、ツリガネニンジン、ヤマホタルブクロ、カシワバハグマ、キクアザミ、タムラソウ、ヒメガンクビソウ、ニオイタチツボスミレ、タカトウダイ、ワレモコウ、ハダカホウズキ、クルマバナ、アマドコロ、エビネ、キンラン、ギンラン、タシロラン、アカショウマ、イワギボウシなどである。ヤマラッキョウ、ナンバンギセル、マヤラン、ヤマニガナ、ヤブカンゾウなどはここ数年見られない。

木本類ではムベ、クロモジ、ヤマコウバシ、リュウキュウマメガキ、ハチジョウウクサイチゴ、ウラジロマタタビ、ツルシキミ、メギ、イワガラミ、タラノキ、ムクロジ、コバノガマズミ、調査区域ではないがカゴノキなどは株数が少ない。

草本類や低木は、過度の草刈りや伐採にあって数を減らしている。鷹取山周辺の緑地は鷹取山公園、横須賀市都市林、沼間の自然環境保全地域などがあるが、民地も多く貴重種の保全は難しい課題と考えられる。

4.その他

三浦半島における植物相調査は、神奈川県植物誌会や市の植物相調査が行われているが鷹取山周辺について通年の調査などは行われていない。2016年4月には鷹取山がモニタリングサイト1000里地調査に登録され、今後モニ1000里地調査により継続的に行っていくことになった。

調査には横須賀市自然・人文博物館の山本薫学芸員と横須賀植物会の大前悦宏氏に一度指導していただいた。両氏には快く指導していただいたことを感謝します。

別表に草本、木本、シダ類と確認した種を掲載したが植物の分類はエングラーク分類体系

を使用した。

当会では、今後も植物相調査を毎月第4金曜日に行っていく予定である。観察することにより、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種もあるかもしれない。調査することは楽しみでもあり、続けることでこの地域の植物相がはっきりしてくると思う。

調査に参加した人（2015年1月～12月まで）
本多久男、中村紀雄、高橋和子、高橋毅一郎、島村健二、小池順子、市川實、石垣正博、金子龍次、渡邊眞章、大内洋子、竹之下香苗、林美紗江（順不同、敬称略）

鷹取山周辺の植物

この辺にも生えているナガバヤブソテツは葉の先には鋸歯がなく、出たばかりの葉の表面には毛がある。ナガバヤブソテツは有性生殖で造精器（精子）と造卵器（卵子）ができる。しかしテリハヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ホソバヤマヤブソテツなど他のヤブソテツ類は無配生殖で造精器（精子）はできる場合があるが造卵器（卵子）はたとえてきても正常に機能しない。だから無配生殖どうしのテリハヤブソテツとヤマヤブソテツの雑種はできないのである。ナガバヤブソテツがからむと造卵器もできるので雑種ができる。ナガバヤブソテツとテリハヤブソテツの雑種であるクマモトヤブソテツが知られている。また、ナガバヤブソテツとヤマヤブソテツの雑種はマムシヤブソテツと呼ばれている。いずれも鎌倉や横須賀市の谷戸で見ることができた。

イボタノキ属の木ではイボタノキ、オカイボタ、ミウライボタがある。イボタノキは若い枝に毛があり葉は長楕円形で先が丸みを帯びる。オカイボタの葉は菱形で丸っこく幅広い印象がある。ミウライボタの葉は披針形で先はえぐれるようにとがる。オカイボタの葉よりやや細い感じがする。

シバヤナギはフォッサ・マグナ要素（火山起

源による植物群）の植物とされる。これは火山活動でできた不毛で荒れはてた溶岩地帯にいち早く入り込み、強い日射しや乾燥に適応して生きてきたのである。三浦半島に分布するフォッサ・マグナ要素の植物としてワダン、アシタバ、ガクアジサイ、オオバヤシャブシ、オオシマザクラ、カジイチゴなどがあげられる。

鷹取山周辺で生育するものにカントウカンアオイ、ミヤマタゴボウ、タマアジサイ、ミズキ、マルバアオダモ、カシワバハグマ、シロバナハンショウヅルがある。これらのものは丹沢から三浦半島を通り、房総の南部まで山脈が続いていたところに侵入した植物と考えられている。

（金子龍次）



写真上からナガバヤブソテツ、イボタノキ、シバヤナギ



カシワバハグマ

ウツギあれこれ

市川 實

1980年代だろうか、今頃の季節になると流れていたコマーシャルにカネボウの「絹石鹸」がありました。バックに「夏は来ぬ」のメロディーが流れていて、最後に「夏は絹」という文字が現れたと思います。「夏は来ぬ」の歌はとても意味不明な歌です。題名からしておかしく、現代文では「夏は来ない」と読まれてしまいます。古文には、「来る」に助動詞「ぬ」を付けた場合、未然形接続の打消し「こぬ」と連用形接続の完了「きぬ」があります。だから現代文では「夏は来た」のです。

卯の花の 匂う垣根に 時鳥（ほととぎす）
早も来啼きて 忍音（しのびね） もらす
夏は来ぬ

作詞は、明治時代の歌人であり国文学者の佐々木信綱で、子供の歌う歌として作っているのに、子供の歌うことなど無視して作詞しています。もしかしたら当時の子供には、この程度の古文は理解できる素養があったのかもしれませんが。「卯の花」はウツギのこと、卯月（旧暦4月）に咲くので。ウツギには匂いがありませんが、「匂う」とあるのは、「鮮やかに映えている」こと。「忍音」は、その年初めて聞かれるホトトギスの鳴き声のことで、鳴き初めはおとなしく鳴くそうです。5番までありますが、以下は省略します。



写真；（上）ウツギ、（下）ハコネウツギ

鷹取山にはウツギがたくさんあります。春に咲くヒメウツギ、マルバウツギ。ツクバネウツギ。少し遅れて初夏に咲くコゴメウツギ、ハコネウツギ、それにウツギ。種類も多いですが株も多く、時期になると白い花が匂うように咲き誇ります。ウツギは空木から来ていて、茎の中が空洞になっていることからウツギで、現在は科は違いますが、昔の人は空木が共通なことからウツギの仲間として、〇〇ウツギと呼んだようです。「空木の花」が「卯の花」になり、卯の花が咲く月で卯月になったようです。

私の子供の頃、お祭りの夜店などには、綺麗に着色された空気鉄砲と発砲スチロールの様な弾が売っていましたが、そんな高級な物は買えるわけがありません。たぶん間違えはないと思いますが、ハコネウツギの木の中心部には、白い「随（ずい）」が詰まっているのです。子供の頃、鷹取山から幹を切ってきて、2～30cmに切り、棒で随を抜きます。すると、今で言う発砲スチロールの様な丸棒が出てきます。これを「ずいでん」と呼んで、

篠竹で作った空気鉄砲の弾に使いました。夜店で売っていた空気鉄砲の弾もこの「ずいでん」でした。でも、本当は「ずいでん」の弾より新聞紙を水に浸けて丸めた弾の方が威力があるので、こちらを使いました。ただ、詰めるのにコツがいります

小学校2年生で、空気鉄砲を使って、空気の弾性を学習します。鉄砲は塩ビの筒で、弾はスポンジです。スポンジだから簡単に詰められ、当たっても痛くありません。カネボウ株式会社はなくなりました。カネボウ絹石鹸は今は売っていないようで、ヤフオクに100円出ていました。ウツギの白い花が終わると、ホトトギスの鋭い鳴き声が響き渡る真夏になります。世の中は変わりますが、ウツギの花とホトトギスの鳴き声は変わらないようです。

平成28年の行事予定

前号でお知らせした今年度の行事予定で、蝶類調査日などに少し変更があります。

<自然観察会>

毎月第2日曜日に行います。雨天の時は次の日曜日に延期します。

<植物相調査>

毎月第4金曜日に行います。雨天の時は日曜日に順延、さらに水曜日に順延します。

<蝶類調査>

調査期間は4月から10月です。毎月第1金曜日と第3金曜日の2回行います。雨天の時は日曜日に順延、さらに水曜日に順延します。

<野鳥調査>

調査期間は12月から翌年の5月までです。毎月第1金曜日に行います。雨天の時は日曜日に順延、さらに水曜日に順延します。

観察会 日程	観察会のテーマ	集合 場所
7月10日	蝶とその食草を探してみよう	追浜駅
8月14日	セミの抜け殻と夏の花を観察しよう	京急 田浦駅
9月11日	鷹取山の秋の七草は何でしょう	追浜駅
10月9日	野菊の違いを観察しよう	神武寺 駅
11月13日	コオロギなど鳴く虫を探してみよう	追浜駅
12月11日	落ち葉の種類を見分けよう	追浜駅
1月8日	冬を越す樹木を観察しよう	追浜駅
2月12日	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	京急 田浦駅
3月12日	早春の野草を探してみよう	追浜駅

植物相調査	蝶類調査	蝶類調査
7月22日	7月1日	7月15日
8月26日	8月5日	8月19日
9月23日	9月2日	9月16日
10月28日	10月7日	10月21日
11月25日		
12月23日	(野鳥調査)	

鷹取山自然観察会 (ホームページを見て下さい)

HP：鷹取山自然観察会 (旧 鷹取山の花と樹)

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表： 本多久男 e-mail：takatori_0721@nifty.com
tel : 090-4177-0164